

第2回多治見市地域福祉計画策定委員会議事録（案）

日 時：令和4年10月27日（木）

9:30～10:30

場 所：多治見市駅北庁舎4階第1-2会議室

出席委員： 安藤 秀章委員、井奈波 文治委員、加藤 孝春委員、加藤 泰治委員、澤田 誠代委員、柴田 勇夫委員、杉原 裕子委員、高木 浩二委員、高橋 重久委員、竹内 恒夫委員、竹藪 洋委員、星野 保隆委員、山田 隆司委員、（50音順）

事務局： 福祉課長：大山 克則、福祉課：前田 ひさ佳

1 あいさつ

2 議題

（1）多治見市地域福祉計画にかかる市民アンケートについて

○委員長 それでは、第2回多治見市地域福祉計画策定委員会を始める。アンケートについて事務局から説明を請う。

（事務局 説明）

○委員長 それではアンケートについての意見を請う。

○委員 コロナで生活様式も意識も大きく変化している。その点をアンケートの質問に入れ込んであるので、その結果を地域福祉計画に反映できればいいと思う。

○委員 問12に「医療機関の受診について」を選択肢として追加してはどうか。次に、コロナの不安を解消する方法の質問があってもいいのではないか。また、問14の質問に対しての選択肢が少ないので「地域活動の減少」や「孤独・孤立」や「生活貧困」を追加してはどうか。

○委員 実際に身内がコロナに感染した時も、本人に連絡があるだけなので家族には進捗状況が分からない。

○委員 障がいの人がいる家族では、医療機関との関わり方が分からないので選択肢にぜひ入れて欲しい。

○事務局 選択肢として追加する。

○委員 問30の選択肢3について、老人会はボランティア活動のみと誤解されるので、老人会の語句は必要ないのではないか。同問の選択肢1について、「まちづくり」の定義がはっきりしないので、「地域を活性化するための活動」や「町内行事の支援のための活動」としてはどうか。

○事務局 老人会の語句を削除し、選択肢1の内容を検討する。

○委員 選択肢3の高齢者はサロンのことか。

○事務局 特定の場所のことではない。

- 委員 送付された地域福祉計画進捗状況票は、第4期地域福祉計画の現在の進捗状況がよく理解できる。問31について、ボランティア活動に参加するきっかけとして、地域活動に参加することが福祉活動に繋がっていくので、きっかけは重要。
- 委員 民生委員は、高齢者が住んでいる居所を把握できるが、ボランティアの人は情報が少ないので把握が難しい。その点からも、ボランティア活動をしている人のアンケート調査をしたことがあるのか。
- 委員 民生委員はひとり暮らしの高齢者の面談をしているが、コロナ禍でできずチラシ配布だけになった。このアンケートの中で、ひとり暮らしの高齢者のことが入れているのは良い。このアンケート内容が子ども達には難しすぎるとのことだが、子ども達が理解できない質問は、家庭で話し合っていくので、親子のコミュニケーションができて良いと思う。
- 委員 50代60代の男性一人の世帯が多い現実のなかで、民生委員や福祉委員がそうした世帯の現状を把握しているのか。
- 委員 民生委員は基本的にひとり暮らしの高齢者を対象にしている。
- 委員 ヤングケアラー問題を市として把握しているのか。
- 委員 ヤングケアラー問題については、市として取り組みを始めた。岐阜県がアンケート調査を実施しているので、その結果が市に報告される予定。
- 委員 学校は把握しているのか。
- 委員 学校や各課でも把握はしている。最近では、中高生を対象にアンケートを行い、実態把握に努めている。子ども支援課は、実際に相談を受けているので、ある程度の把握はできている。
- 委員 兄弟が4～5人いて両親が働いていると、上の子が下の子の面倒をみている。上の子が下の子の朝食を食べさせているうちに時間が無くなり上の子は食べずに登校することが実際にある。
- 委員 「福祉」とは何かの説明を表紙に入れたらどうか。そのうえでアンケートをすると知識が深まるのではないか。
- 委員 問13の選択肢4を、事務局で検討していただきたい。「病院の面会制限がある」を選択肢に追加してはどうか。
- 委員 コロナの質問の中で申請しないともらえない保険給付のことをいれたらどうか。
- 委員 国民健康保険の方だと傷病手当金を請求できる。保険会社は9月で入院以外の支払いは中止にしている。
- 委員 多治見市社会福祉協議会は「地域福祉活動計画」を「地域福祉計画」と同時進行している。その活動計画の中で、ボランティアに関することを入れ、ボランティアの人達のアンケートを行っている。また、地域福祉計画のアンケート結果を社協の活動計画に反映することで、情報共有はできる。
- 委員 福祉に対しての説明はあったほうが良いのではないか。問36の質問に「警察

署」を項目に追加してはどうか。警察は 24 時間相談を受けれる機関であり市役所や保健所にもつないでいる。問 37 の質問に「インターネット犯罪」を項目追加してはどうか。

- 事務局 36 の質問に警察署や保健所を追加項目として検討する。また 37 の質問にインターネット犯罪を追加項目として検討する。
- 委員 問 40 の質問で企画防災課や区長会でも災害に対応しているので民生児童委員に限定するのはどうか。
- 事務局 企画防災課と相談し、質問内容を検討する。
- 委員 子ども対象のアンケートの作成は難しいとのことなので、子どもの意見を反映したいのなら、その部分の質問だけでも子どもに答えやすい文章にしてはどうか。
- 委員 アンケート対象者を広い範囲で抽出するので、偏ったアンケート調査にならないよう、ターゲットを絞った質問も必要。そうしないと無意味なアンケートになってしまう。今回で対応できない案件は、今後の課題とし次に引き継ぐ。参考までに、秘書広報課は高校生対象のアンケートを実施している。
- 委員 問 1 の選択肢に「どちらでもない」や「答えたくない」があるが、ジェンダーのことか。
- 事務局 回答は本人に任せる。
- 委員 問 4 で夫婦と母親の場合の選択肢は何番になるのか。
- 事務局 世帯で考えていただき 3 番になる。
- 委員 12 歳～14 歳では回答は難しいとの意見が出ているが、多治見市独自の福祉教育読本を小学 4 年生から学習すると聞いている。読本で福祉全般を学ぶので「福祉」についてはある程度は理解していると思う。その本を通して子ども達が人に対して思いやりを持ってもらえるような教え方をしていただきたい。
- 委員長 その他意見はあるか。
(意見なし)
- 委員長 今後の予定について事務局から説明を請う。
(事務局 説明)
- 委員長 これをもって、第 2 回地域福祉計画策定委員会を終了する。